



中部電力

## 海域環境の保全

# も ば ヒジキの藻場造成に 取り組んでいます。



岩礁域に生育する天然のヒジキ

### 背景・目的

- 沿岸域で電源開発を行う際には、環境影響評価法により藻場や干潟等の海域環境の保全が義務付けられています。
- そこで、藻場の一種であるガラモ場の造成技術として、ガラモ場の構成種であり国内の沿岸域に広く分布しているヒジキを対象に藻場を造成する技術の開発に取り組んでいます。

### 特長

- 陸上の水槽で種苗を大量に生産し、これを海域に移植することで、効率的に藻場を造成します。
- 少量の親株から大量の種苗を生産するため、天然ヒジキへの影響を最小限に抑えられます。

### 用途

- 電源開発の際に想定される藻場造成を円滑に行うことで、海域環境の保全に貢献します。
- 地域共生策の支援として、技術転用も可能です。



ヒジキの幼胚(タネ)



試験水槽で生産した種苗



実海域へ移植後、生長した種苗

### 開発者の ひとこと

食品として誰もが良く知る「ヒジキ」ですが、流通量の約85%は海外(主に中国・韓国)からの輸入に頼っています。また、国産のヒジキは、生産量が減少傾向にあります。今回のテクノフェアを機に、ヒジキに興味・関心を持っていただけたら幸いです。